

平成 20 年 9 月 10 日  
パリ産業情報センター  
駐在員 社本 朗

## 一般調査報告書

### JB(ジョイント・尾州)ブランド、パリとミラノで商談会を開催

9 月 17 日から 19 日の 3 日間、日本でも最大級の毛織物産業の集積地である尾州産地(愛知県北西部等)の「JB(ジョイント・尾州)ブランド海外展開催委員会」が「JB(ジョイント・尾州)」ブランドを掲げて、パリ中心部に位置するエスパス・シャトレ・ヴィクトリアにて「JB パリ展示商談会」を開催しました。

前週の同月 15、16 日にはミラノのジョリィ・ホテル・ミラノ・プレジデントで「JB ミラノ商談会」を開催しました。

パリでは今回が 5 回目、ミラノでは 2 回目となるこの催しには、フランス、イタリアを中心としたメジャーブランドの関係者が押し寄せ、「ウール素材を探しに来た。」、「展示サンプル以外にも見せてほしい。」など高い引合いを得て、パリ、ミラノ合計で、約 680 点のサンプル・見本反請求を受けるという成果を挙げました。

#### <ジョイント・尾州ブランド・パリ展示会の概要>

今回のパリ・ミラノ商談会には愛知県北西部の毛織物の尾州産地から石慶毛織、小池毛織、後藤毛織、昭和毛織、田中テキスタイル、長大、艶金興業、野村産業、みづほ興業、三星毛糸、森織物の 11 社が参加しました。

パリ展示商談会では、2009～2010 年秋冬服向け生地約 110 点を、「Masculine マスキュリン」、「Animal アニマル」、「Roots ルーツ」のコンセプトで展示して、メイド・イン・尾州を強くアピールする会場構成が印象的でした。

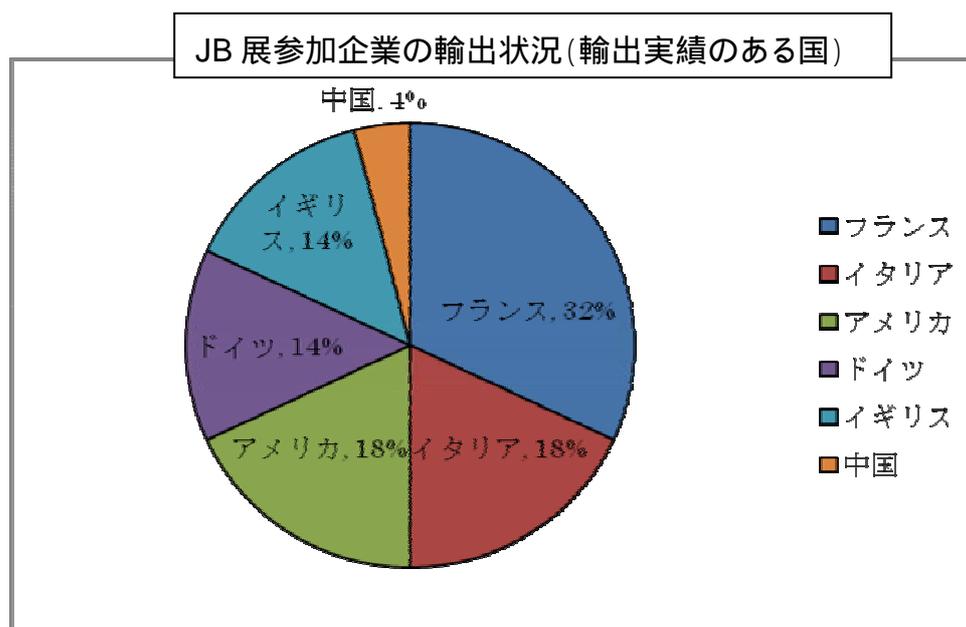


パリ展示商談会 会場構成

参加 11 社のうちパリ展示商談会に 5 回継続して出展しているのは 9 社、3 回目、4 回目がそれぞれ 1 社ずつとなりました。

参加 11 社のうち輸出実績のあるのは 10 社で、その累計輸出先は下表のとおりとなっています。

参加企業のこれまでの輸出実績がある外国をまとめてみると、フランスが 32%、イタリアが 18%の割合を占めているため、今回のパリ、ミラノ商談会ではさらにビジネス発展させるという意気込みが各社から感じられました。



出典：JB ブランド海外展開催委員会報道各社配付資料より

来場者との商談では参加企業代表や現地エージェントが対応し、サンプル請求や見本反請求のほか、現物オーダーも狙って交渉が行われました。

最終的にパリ 3 日間で、42 社から 73 名の来場者があり、そのうち 27 社から 596 点のサンプル請求と 4 件の見本反請求を受けました。

ミラノ 2 日間では、30 名の来場者があり、80 点のサンプル請求がありました。

パリでは、J・Cカステル・バジャック、ルイヴィトン、ミラノでは、ドルチェ&ガッバーナ、ジョルジオ・アルマーニなどの著名アパレルが来場し、多くのサンプル請求を行っていきました。

区分	来場者数 (前回)	サンプルリクエスト 数(前回)	見本反請求数 (前回)
パリ会場	73 名 (196 名)	596 点 (867 点)	4 件 (2 件)
ミラノ会場	30 名 (70 名)	80 点 (327 点)	-

## < 出展素材の特徴 >

今回出展された素材は約110点でした。最高は1メートルあたり4,300円(現地販売価格：以下、同じ)、最低1,400円で、平均は2,412円(参加11社の代表三商品平均)でした。

4,300円の最高の素材は、ウール84%、シルク16%のハード・ドスキンで、シルクを先染めして特注の風合いが感じられるものに仕上がっていました。

その他にも、高密度織物でありながら軽い感じでソフトなタッチに仕上げたものや、見る角度により柄が浮きだしたり、消えたりする商品、風通ジャカードにて縮む素材(ウール)と縮まない素材(キュプラ、ナイロン)の素材の特性を生かしてリファイン加工し、より一層凹凸感をだしたものなど、ウールを中心に尾州産地の各社が誇る最新技術や独自技術を駆使した素材が展示され、そのクオリティの高さが感じられました。



パリ会場内の展示の様子

## < JB(ジョイント・尾州)ブランドの推進体制 >

ジョイント尾州事業は、平成16年7月に国の事業である「JAPANブランド育成支援事業」に採択されたことから本格的な活動を開始しました。

平成17年3月に第1回JBパリ展示会をルーブル美術館ギャラリーで開催して以来、毎年パリで展示商談会を行うほか、フランス、イタリアのメジャーアパレルを中心にセールス活動を行い、ブランドの浸透に力を入れています。

体制としては、事業開始以来、一宮商工会議所などで構成される「JBブランド構築事業実行委員会」を核にして、地元商工会、愛知県、一宮市、日本毛織物等工業組合連合会、(財)一宮地場産業ファッションデザインセンター、産地生産企業17社、専門家、海外エージェントなどが協力、一体となって事業を実施してきました。

しかし、ジョイント尾州ブランドのさらなる発展のため、平成20年4月1日付けで有限責任中間法人「ジョイント・尾州ブランド」を設立しました。

これは、19企業・団体法人の出資により愛知県尾張西部地域及びその周辺地域にある繊維企業・関連団体を基盤とし、ジョイント・尾州ブランド振興のための事業を行うことにより、尾州織物産地の発展に貢献し、活力ある地域経済社会の形成、社員に共通する利益を育むことを目的としており、ジョイント尾州ブランドの世界への浸透を目指しています。

WEB サイト

<http://www.joint-bishu.jp/info/org.jp.html>

## <今後への期待>

今回のパリとミラノの商談会は、事前セールスで有力アパレル各社はサンプル請求を済ませていたことや、円高の進行で輸出環境が厳しくなったことから、前年と比べて多少来場者数は減りましたが、クリスチャン・ポエル、カトリーヌ・ブラドゥ、最近東京・銀座進出で話題を呼んだ H&M のエージェントが訪れるなど、ヨーロッパでの商談会開催が定着してきたこと、ブランド自体のネームバリューが少しずつ浸透していることが感じられた。

参加企業からは、「欧州で著名なアパレル、メゾンで認められることはなかなか時間がかかるが、事前セールス、展示商談会を通して少しずつ尾州ブランドの品質が認められつつあると感じた。」、「著名アパレルの展示商談会への来訪も多く、今後期待できる。」と、ビジネス展開を期待させる発言が聞かれました。

来場者からも「毎回、JB・ブランドの生地をコレクションで使用している。」、「日本の生地は品質が高く、興味がある。」など良い評価をたくさんもらいました。

今後、毛織物産地としての伝統や、高い加工・生産技術、国内の厳しい品質基準を超える企画力・技術力といった地域の資源を生かし、「JB(ジョイント尾州)」ブランドとして、国内外での展示商談会、企業個別訪問によりブランドの浸透を図り、日本の冠たる織物・ニットの産地が世界へ飛躍できる日が近づいていることを感じさせられるパリ・ミラノ商談会でした。



パリ会場外観(エスパス・シャトレ・ヴィクトリア)



パリ会場 商談の様子